

東京七座会だより

平成16年春号 (No.1)

春たけなわ、心も浮き立つ日々が続いております。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。総会・懇親会の開催が近づいてきましたので『東京七座会だより』なるものを作成してみました。ふるさと会や田舎の情報をお知らせできればと思っています。少なくとも、年1回はお手元にと頑張るつもりです。

昨年のふるさと会は、7月6日に東京七座会と10月15日に東京鷹巣会が開催されました。東京七座会には24名の参加があり、会場を慣れ親しんだ新宿ステーションビルから歓楽街の歌舞伎町に変えました。戸惑われたかもしれませんが、これはステーションビルレストラン街のグレードアップによる金銭的影響がもたらした結果でした。

会員の動向については、退会者4名・加入者13名で現在152名の会員数となっております。

退会者

成田吉美 (死亡)
仲村 貢 (死亡)
関 昭子 (帰郷)
高橋ヤス子 (帰郷)

加入者

秋林喜子 簾内若子 戸島幸弘 仲村礼治
熊谷利雄 田村重秀 仲村光則 広島トミ
澤田信夫 戸澤三郎 中村みや子 戸島正子
須藤隆子

(順不同敬称略)

亡くなられた方々のご冥福をお祈り致します。(合掌)

帰郷された方々にはご自愛専一のほどお祈り申し上げます。

加入者の皆様、これからも宜しく願います。

他方、東京鷹巣会へは七座会から15名の参加がありました。

他地区の出席状況は米代会(鷹巣)36名、小猿部会(七日市)35名、坊沢会16名、綴子会24名、沢口会9名、栄会12名の計149名で町長を始めとする来賓とアトラクション参加者等を含めると総勢約190名の集まりとなりました。

『東京鷹巣会』は7地区会が一つとなったふるさと会です。総会・懇親会は地区別にブースが分かれており気後れすることなく気楽に参加できる形態となっております。同じ町出身という意識が満ちており他地区の方々の話し合いにも和気あいの雰囲気がかもし出しています。七座からは4名(藤田時義、五十嵐イマ、仲村重光、熊谷忠憲)が役員として活動しています。七座会同様、皆様方の更なる参加をお願いします。

七座のあれこれ



雷皇(ライウ)神社は、集落の北側にあつて、昔から轟山(カヤマ)といわれてきた山の頂に鎮座しています。ここには雷神さまをお祀りしています。「七座郷土史」によりますと雷神さまを 祀るようになったのは、それまで村に落雷、火災が多くそれを防ごうとして、京都の別雷(ワカヅチ)神社で入魂してもらい、それを御神体にし「雷皇神社」としたとあります。山頂からは、対岸の村や米代川が一望でき、大変眺めの良い場所です。

今泉の庚申堂は、昔は庚申塚でした。お堂は数年前に建てられたということです。そこには石塔が2基あって1基には「猿田彦大神」とあり、もう1基には「青面金剛・宝暦六年」(宝暦6年は1756年)とあります。畠の中の道端に、今から約250年前、2基の庚申塚の石塔がひっそりと建っていたということは、ここが羽州街道であったことを表しているといえます。「青面金剛」は仏教という庚申さまで、「猿田彦大神」は神道という庚申さまです。猿田彦大神は、天孫降臨の際に途中の分かれ道まで神々を迎えに行き道案内をした神です。その神話にならって、お祭りの時お神輿の先導をつとめている、あの一本足の高下駄の天狗が猿田彦大神です。この神は、村境に祀られ、村外から侵入してくる疫病、災害などの災厄をもたらす邪霊、悪神を防ぐという信仰から生まれたものです。猿田彦命を祀るのは、道案内の神であり、「かのえさる」の日におまつりするということからです。年に六回ある「かのえさる」の日には、講中の人達がこのお堂に集まって祭事を執りおこなっています。今泉の庚申さまは、神仏二基の石塔と庚申塔が合せ残されていることは、大変めずらしく文化財としても大変貴重なものであると考えられています。

【後記】

七座のあれこれは、賀状に掲載した写真に説明を加えてみました。どうか。

あえて意識することもなかった田舎のものに、このようなエピソードがあることは「目から鱗」の感があります。これからも故郷の情報をお伝えするつもりです。(小さい村ですのですぐにネタ切れになるかもしれませんが・・・)

今年から総会・懇親会の出欠葉書は会員の皆様の氏名住所を事前印刷して送付いたします。出欠のチェックのみで返信できますが名簿整理したく加筆訂正をお願いします。

昨年、東京鷹巣会は15周年記念誌を発行しました。昔から現在までの町の推移を会員からの投稿により紹介しています。若干の部数を確保しましたので希望がありましたら送付しますのでご一報を下さい。なお、今年の七座会参加者を優先して開催日に配布します。ふるさと会は会員の拡充に苦慮しています。一緒に遊んだ子が載っていない、同級生が他にもいるけど等がありましたら連絡をお待ちしております (熊谷忠憲)

